

LESSON 19

令和6年10月～11月に実施された「市内公共交通の今後のあり方について」の市民アンケート（自由記述の有効回答23件）の内容をまとめると、主に以下の5つのテーマに分類できます。

1. 路線廃止・減便に対する強い危機感と生活への影響 北部丘陵地区や東部沿岸地区を中心に、バス路線の廃止・減便に対する切実な反対意見が多く寄せられています。特に免許を返納した高齢者からは、病院通いや買い物に不可欠であり、「バスがなくなったら死んでしまう」「孤立する」といった強い危機感が示されています。また、子育て世代からは、保育園や学校の送迎に支障が出るため、朝の時間帯だけでも路線を残してほしい、あるいはスクールバスを導入してほしいという要望が上がっています。

2. 利便性の向上・ルート見直しの要望 現行のコミュニティバスについて、病院や駅だけでなくスーパーなど住民の生活に即したルートへの見直しを求める声があります。また、バス停からの距離の遠さを解消するためのデマンド型バス（予約制バス）の導入や、複雑な時刻表の簡略化、定時運行の徹底、路線の周知不足の解消など、運用面の改善を求める意見もありました。

3. 車利用者からの視点と将来に向けた投資 日常的に車を利用する層からは、「赤字の公共交通よりも道路やバイパスの整備に税金を回してほしい」という意見が出ています。しかし一方で、今は車社会であっても「自身の定年後」「親の高齢化」「子どもが成長した時の移動」を見据え、将来のための長期的な視点での投資を求める声も複数上がっています。公共交通の充実、若者や学生が住みやすい街づくりに繋がるとの指摘もあります。

4. 自転車・新しいモビリティ環境の整備 バス以外の交通手段として、自転車レーンの整備を求める声があります。歩行者との接触の危険性や、途中で途切れてしまう中途半端なレーンへの不満が指摘されています。また、若者層を中心に、電動キックボードのシェアサービス導入や走行ルールの明確化など、新しいモビリティに対する積極的な対応を望む声も寄せられています。

5. 駅前再開発への賛否と行政への不満 駅前の再開発については、「シャッター街の活性化のために賛成」とする声、「今の広場を残してほしい」とする反対意見、

「どうせ一部の業者が儲かるだけ」という冷ややかな意見に分かれています。さらに、多くの回答で市役所の対応に対する不満や不信感が綴られています。「路線廃止の十分な説明がない（住民説明会を求める）」「工事に伴うバス停移動の案内が不親切」「アンケートをとるだけで結果の報告や改善がされない」など、市民への丁寧な説明やフィードバックを求める厳しい意見が目立ちます。

この要約をもとに、さらに特定の地域や年代（例：「高齢者の意見」や「北部地区の意見」など）に絞って詳細を確認しますか？あるいは、この内容を整理したレポートを作成しましょうか？